

## 令和3年度 一学期始業式 式辞

山形市では、観測史上、最も早い「桜の開花宣言」が聞かれ、春の訪れが実感できる本日、ここにこうして皆さんと集い、令和3年度をスタートできることを大変うれしく思います。皆さんとの出会いを心待ちにしていました。今朝、校門で自分から挨拶を交わしてくれる皆さんの様子を見て、清々しい新年度の幕開けを実感しています。

校長の沢口肇です。生徒代表の歓迎の言葉をいただき、私を含め5名の教職員全員、この伝統ある高楯中に勤務できる喜びを実感しています。これから、最上級生としてこの高楯中を力強く牽引してくれる3年生、そして1年生からは尊敬される先輩、3年生からは頼りにされる後輩となる2年生の、一人一人の「よいところ」をたくさん見られるのを楽しみにしています。

さて、新学期のスタートにあたって、皆さんに2つのお願いがあります。

<sup>とうとつ</sup>  
唐突ですが、私は「相田みつを」さんの詩が好きです。たくさんある詩の中でも、特に「しあわせは いつも自分のところがきめる」という詩が気に言っています。

皆さんは、日々の生活の中で幸せを感じる瞬間はどれくらいあるでしょうか。1回ほどでしょうか。それとも、10回くらいでしょうか。同じことを体験しても物事への感じ方は人それぞれ違います。でも、幸せとを感じる瞬間が多ければ多いほど、楽しい毎日になりそうです。おはようとあいさつを交わせる人がいる幸せ、仲間と何気ないことで笑い合える幸せなど、たくさんの方が皆さんの身の回りにはあふれています。ぜひ、皆さんには、普段、自分の周りにある幸せに気づけるセンサー（感覚）を敏感に、そして人と比べるのではなく、自分の価値観（物さし）でたくさんの方が幸せを感じ取れる毎日を送ってほしいと願っています。これが1つ目の願いです。

2つ目の願いは、高橋中生が頑張る3つのことです。校長室の前に以前から掲示してある、「たすけあう」「すすんで学ぶ」「きたえあう」ということばをこれまで何度も見聞きしてきたはずですが、かしら文字をとって、「たすき」です。素敵な合言葉だなと感銘を受けています。

「たすけあい」の第一歩は何でしょう。私は、「あいさつ」と「声がけ」だと思います。明るくあいさつをされたり、困ったときに声をかけてもらっただけで、人は元気が出てくるものです。「温かい声がけ」、「元気なあいさつ」ができる、心豊かな人になってください。

「すすんで学ぶ」ときに大切にしてほしいのは、「わからない」は「わかる喜び」の原動力だということです。知らなかったことやできなかつたことが分かったりできるようになることは幸せなことです。進んで学ぼうとする意欲は、周りから与えられるものではなくて「自分で生み出す」ものです。

「きたえあう」ためには仲間が必要です。勉強でも、部活動でも、生徒会活動でも、仲間がいるから頑張れます。ライバルがいるから成長できます。

皆さんの中には大きな可能性の「種」が眠っています。  
ぜひ、仲間と切磋琢磨して、力をつけましょう。

未だに、コロナの収束が不透明な世の中です。登校前の検温やマスク着用、手指の消毒が当たり前になり、3密を避けるなど制限のある学校生活ですが、皆さんと、ここにいる先生方と、知恵を出し合い、工夫しながら、明るく、そして、たくましい高楯中をつくっていくことをともに誓いながら、一学期始業式の式辞といたします。